

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 9 月 27 日現在

機関番号：22301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23520822

研究課題名(和文)近代日仏間生糸・絹織物貿易史の研究 - リヨン絹織物業組合の原史料を中心に -

研究課題名(英文)Study on history of silk - industries of France and Japan in modern age

研究代表者

富澤 一弘 (Tomizawa, Kazuhiro)

高崎経済大学・経済学部・教授

研究者番号：90265455

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：報告者は、申請主題「近代日仏間生糸・絹織物貿易史の研究 - リヨン絹織物業組合の原史料を中心に -」に即して、平成23 - 27年度までの5カ年度にわたり、フランス共和国の国立図書館・フランソワ・ミッテラン館(在パリ市)に赴き、19 - 20世紀前半における日仏間生糸・絹織物貿易に関する原史料・文献等の収集を行った。

またこの調査に並行して、日本国内の史料所蔵機関において当該期の生糸・絹織物貿易に関する史料・文献等の調査を重ねてきた。

研究成果の概要(英文)：I have been to France National Library of F.M.Mitterrand in Paris for five years.

And I have been researching the original documents of silk -industries in France and Japan in modern age.

研究分野：日本近代経済史

キーワード：日仏間生糸・絹織物貿易史 世界蚕糸業史 フランス蚕糸業史 欧州蚕糸業史 リヨン絹織物業組合

1 研究開始当初の背景

報告者は、過去 30 年間、近代日本蚕糸業史、殊に生糸貿易史について、研究を行い、当該分野に関する学術論文を多数、作成・公刊してきた。

『生糸直輸出奨励法の研究』(日本経済評論社、平成 14 年 10 月、1 - 596 頁)、『生糸直輸出奨励法の研究・補遺』(日本経済評論社、平成 18 年 10 月、1 - 168 頁)、『北関東地方史研究』(日本経済評論社、平成 22 年 1 月、1 - 524 頁)の三著作は、これらの研究成果の一端である、と言える。

報告者は、如上の研究の過程で、19 - 20 世紀前半において、当時世界最大の絹織物業団体・リヨン絹織物業組合に関する第 1 次史料にたびたび、接する機会を得ていた。

なお研究史を繙いてみれば、明治時代以降、昭和後期に至るまで、わが国の蚕糸業史研究者の多くは、国内の史料・文献等を中心に、堅実な実証研究を重ねて、今日のいわゆる通史をかたち造ってきた。

しかしながら、生糸貿易の相手国たる欧米諸国、その他、海外諸国の原史料・文献等を駆使した生糸貿易史研究は、きわめて少数にとどまり、この方面の研究は、平成期を迎えても、なお未開拓であった。

このような見地から、平成 22 年度、報告者はフランス現地史料調査を中心とする「近代日仏間生糸・絹織物業貿易史の研究 - リヨン絹織物業組合の原史料を中心に - 」という研究主題の下、日本学術振興会に対して申請を行い、幸いにして採択されている。

その結果、平成 23 - 27 年度までの 5 カ年度にわたり、フランス共和国をフィールドとする本研究が実施されるに至った。

2 研究の目的

本研究の目的は、19 - 20 世紀前半、世界第 1 位の絹織物業製造国にして、世界第 2 位の日本製生糸の輸入国であったフランスに赴き、日仏間生糸・絹織物業貿易史に関する史料・文献等を、閲覧・収集することにある。

主たる史料所蔵機関は、フランス共和国の国立図書館・F.M.Mitterrand 館(パリ市)であり、同館収蔵にかかるリヨン絹織物業組合の優秀な第 1 次史料や同機関誌紙、定期刊行物、調査報告書等の閲覧・複写を、その柱とするものである。報告者は、この 5 カ年度にわたり、かかる調査を精力的に実施してきた。

3 研究の方法

報告者は、平成 23 - 27 年度までの 5 カ年度、毎年平均半月以上、フランス国立図書館に赴き、19 - 20 世紀前半、日仏間生糸・絹織物業貿易史に関する原史料・文献等を、調査・精査して、大量に閲覧・複写している。

その中心はリヨン絹織物業組合の機関誌 *Le bulletin des soies et des soieries* (1877 年創刊、後継誌は 1980 年代まで刊行)の収集にあった。

明治初期 - 昭和前期の「官報」にも、頻りに転載され、大日本蚕糸会発行の『大日本蚕糸会報』のモデルともなったこの機関誌は、関東大震災や戦災による官公庁、大学、研究機関等の罹災の結果であろうか、まとまったコレクションとしては、国内に現存しておらず、国立国会図書館等、最大級の史料所蔵機関にも、未入庫である。

ちなみに、海外の史料所蔵機関のオンラ

インによる史料公開の対象にも、なっていないことから、現在、閲覧を希望するならば、自らフランス、イタリア、イギリス、合衆国等の史料所蔵機関に出向かねば、閲覧できない、きわめて貴重にして、得難い史料である。

報告者は、この史料を、1877年の創刊号から、フランスの著作権法が複写を許す下限の1920年代前半まで、全号閲覧の上、必要な頁を悉皆的に複写して、帰国している。

そして自宅において、これら複写史料を翻刻・検討、未紹介の重要史料として、掌握している。

なおフランス現地史料調査と並行して、日本国内の史料所蔵機関に赴き、19 - 20世紀前半、日仏間生糸・絹織物貿易に関する補充調査を実施、当該期の原史料・文献等も、鋭意収集している。

これら国外・国内双方の史料所蔵機関より入手した第1次史料は、今後の史料集・論文集等の刊行に際して、基幹をなすものとなるはずである。

4 研究成果

報告者が平成23 - 27年度までの5カ年度に収集した史・資料、文献等は、仏文、英文ともに龐大であり、それらの整理・分析は、未だ途上にある。

可能な限り迅速に翻刻・研究を進捗させていくつもりであるが、まずはこの2年間で本主題にかかる史料集を刊行、それから1 - 2年以内に論文集を刊行する予定である。

なお既に公表の口頭発表については、以下の「5 - (1)」を参照のこと。

5 主な発表論文等

(1) 口頭発表(計8件)

「明治期上州生糸とフランス」、群馬歴史研究会、群馬県桐生市黒保根町、2012年11月3日

「19世紀絹業者のみたパリ・リヨン」、群馬歴史研究会、群馬県桐生市黒保根町、2013年1月13日

「仏文史料にみる万国博覧会出品の日本生糸 - 明治期を中心に -」、群馬歴史研究会、群馬県桐生市黒保根町、2013年10月6日

「仏文史料にみる日本製生糸の評判 - 明治期を中心に -」、群馬歴史研究会、群馬県桐生市黒保根町、2014年3月12日

「幕末・明治初期のリヨン生糸相場の推移 - 仏文史料を通じて -」、群馬歴史研究会、群馬県桐生市黒保根町、2014年12月6日

「明治初期のニューヨーク生糸相場の推移について - 仏文史料を通じて -」、群馬歴史研究会、群馬県桐生市黒保根町、2015年2月7日

「大正初年における日本製生糸の評判について - フランス市場を中心に -」、群馬歴

史研究会、群馬県桐生市黒保根
町、2015年11月29日

「大正中期における日本製生
糸の評判について - フランス
市場を中心にして -」、群馬歴
史研究会、群馬県桐生市黒保根
町、2016年2月28日

6 研究組織

研究代表者 富澤一弘 (TOMIZAWA, Kazuhiro)

高崎経済大学・経済学部・教授

研究者番号：90265455